

幅広いテーマで ビジネスや社会を学び、 ともに考え、語り合う。

自己成長のきっかけにしたい、と入塾。

旭化成ホームプロダクツ株式会社

東浦 彩
(2007年商学部卒)



旭化成ホームプロダクツ株式会社で新規事業の営業をしております。東浦です。環境先進国ドイツで生まれ、世界40ヶ国以上で愛されている「フロッシュ」という洗剤の拡販に日々奮闘しております。

「自己成長のきっかけにしたい!」という想いで入塾を志望いたしました。三日月塾に参加したことで、日本を代表する経営者の方が、どのような観点で物事を見てこられ、決断されてきたのかを知ることができました。教科書的な講義ではなく、失敗談なども交えた本音ベースのお話は、臨場感や経営者の方の熱い想いが伝わり、「活きた知識」として学ぶことができたこと感謝しております。

印象的だったことは、全ての講師の方の根底に“Mastery for Service”があるということでした。自社さえ儲かれば良いという狭小的な考えではなく、もっとマクロに物事を捉えていらっしゃると思いました。経営者というのは遠視して

刺激的だった、塾内でのさまざまな議論。

住友林業株式会社 総務部法務グループ

岡崎行師
(2006年司法研究科修了)



私は、住友林業株式会社の総務部法務グループという職場に所属し、企業内弁護士をしています。

三日月塾に参加したきっかけは、法務という担当の枠組みにとらわれず、経営の視点を持ちたかったことにあります。参加当初、特に私が得たいと思っていたのは、経営判断をするのに、また経営判断をできる立場になるために、どのような知識が必要で、いかなる経験しておくべきなのか、ということでした。

しかし、三日月塾を受講して、すぐにこのような“課題の設定”自体が誤りであることに気づかされました。三日月塾の講師になっていた経営者の多くは、経営者になるための、また経営判断のための一般的な方程式を持っていたというわけではなく、目の前に直面する課題に、ただただ愚直に、そして誠実に対処してきた、という印象を受けました。よく考えれば当たり前のことなのですが、経営は全て個別解なのであって、いくら経験や知識があるからといって、常に解決できる魔法の杖はないということを実感理解できたように思います。そして、それこそが経営ということの怖さであり、また面白さであることもよく分かりました。

もっとも、多くの講師の経営者に共通点が全くなかったというわけではありません。それは、時間のとらえ方という意味では、当該事案だけではなく中長期をも見据え、場所のとらえ方という意味でも、今いる場所だけではなく、もう少し広がりのある場所を視野に入れている点で共通していたように思います。

また、三日月塾の特徴は、このような魅力的な講師だけではありません。多士済々なメンバーも特徴的です。業界の有力企業の一線で活躍する人がたくさん参加しており、塾内での議論はかなり刺激的です。塾内にとどまらず、メンバーの自主企画も目白押しです。三日月塾がきっかけで、企業間でコラボレーションの企画を検討しているケースもあると聞いており、人脈作りという点でも、私の幅を広げてくれました。

もし三日月塾にご参加を検討しているのでしたら、是非ともご参加を前向きに検討していただければと思います。

海外の人たちに 日本の長所をもっと紹介したい。

株式会社海事プレス社 営業局 部長

須藤祐子
(1996年文学部卒)



2008年に長男を、2012年に次男を出産し、とにかく目の前のことに精一杯な毎日を過ごしてきました。そんな私でしたが、そろそろサラリーマン人生の折り返し地点と思い至り、会社のマネージメントに関わる方々の哲学や経験から一段上の視点を学びたい、また大学時代と同じように切磋琢磨できる仲間に出会いたい、と三日月塾に入塾を志望いたしました。

緊張しながら着席した初日、ピカピカの大企業勤めの同期生のリストを見て、「場違いなところに来てしまったのかも」と不安に思った瞬間、聞こえてきた関西弁! そうか、ここは関西弁を遠慮なく使える場所だった! と、ほっとしたのを覚えています。そして、名だたるご講演者の含蓄あるお話も、当然ながらネイティブな関西弁で、より心に染み入った気がします。

講演者の先輩方は、どなたも仕事を含めた人生全てを楽しんでいる素敵な方々ばかりでしたが、中でも宮内さんのご講演が一番印象深かったです。特に、「一人の日本人として、日本文明、日本人の長所を世界に発信することが重要で、そのためには英語が必要不可欠」というお話で、大学時代にそのような熱意

関学も三日月塾も、 「関わりを学ぶ」キャンパスだった。

三菱電機株式会社 電力・産業システム事業本部
電力流通システム事業部 電力流通システム海外営業部 第二課
兼 電力流通システム計画部 変電戦略課

勝田 稔之
(1997年経済学部卒)



私は、関西学院で10年間学んだ後に三菱電機に入社、現在は海外電力会社向け変配電機器・システムの販売、及び当社の変配電事業の戦略・事業計画の策定を行っている。三日月塾には笹川取締役(当時)から推薦頂き、主に以下の動機で志願、第15期生として入塾した。

- ・このような機会以外では接することがないであろう日本を代表する大企業の経営者の方々から語られる経験、人生観、仕事観ほかの教示、人としての魅力を目と耳と心で聴き取りたい。
- ・また異業種から参加する他塾生との交流も作用し合う多様性に満ちた贅沢な学びの機会に、多大な価値と可能性を感じる。

三日月塾という貴重な機会を得たものは何か。谷口副塾長によるウォーミングアップ、そして講師の方々が語られる内容、それを書き留めるメモは、まさに珠玉のアンソロジー永久保存版である。また、塾後の懇親会や有志による放課後活動と称しての自主的な集いなどもあり、その関わりは卒業後も続き新たな価値を生む可能性がある。それらもさることながら、次に自身が大小深淺を問

わず誰にどのように関わるができるかを考える、その意識の高まりに入塾の意義を感じる。校章を冠する塾名のごとく、関学出身の大先輩方からの教示を受け、自分自身が組織の後進ほか周囲との関わりにおいて、他者に響き伝えられる人間的豊かさの修養を目指す意識と努力の拠り所になろう。

これまで自分にとっての関学は、出身校で若かりし頃の良い思い出だった。10年間学んだ上ヶ原のキャンパスを離れて20年目に再び学びの機会を得た。その卒業時に、自分にとって三日月塾とは何だったのだろうかと思い巡らせた。そして辿り着いた答えは、関学は、そして三日月塾は「関わりを学ぶキャンパスである」ということ。関学出身の大先輩方に関わり頂いた三日月塾での気づきが、何らかの形で今後の思考と行動の起点の一つになることから、今こそ関学は「母校である」と表現してもよいのかも知れない。そんなことにも気づかせてくれた三日月塾であった。

チームKGで 社会の発展に寄与していきましょう。

株式会社ユカシカド 代表取締役

美濃部 慎也
(2006年神学部卒)



2013年にユカシカドという会社を創業し、代表取締役をしております美濃部と申します。当社は、「国内外を問わず平等な環境と機会の創造に全力を尽くし、努力できる才能を持っている人が強くなる世界の実現を目指す、栄養に特化した食品企業」です。

関西学院在学中は、アメリカンフットボール部に所属しており大変素晴らしい時間を過ごすことができました。引退した日に小野コーチ(現ディレクター)より「ファイターズでフィールドに立てたことを誇りに思い、これからも胸を張って生きていて下さい」と言っていた言葉が今でも大きな自信に繋がっています。

さて、三日月塾に入塾したきっかけは、自分の言葉でしっかりリードできる経営者になるために、講師や塾生の皆様から気づきを少しでも多く得たいという思

いでした。結果ですが、月1回の講義だけで自分の言葉でリードできるようになる技術を得ることは勿論できません。しかし、毎月偉大な諸先輩にお会いすることで様々なリードの方法があることを知りました。また、講師の皆様にも共通していた点として、成長意欲の高さと驚くほどの勉強家であることを知り、我々のような若い世代はもっとがんばらなさいと改めて思い起こさせられました。

最後に第15期@東京では、経営者は私一人で、ほとんどが一部上場企業に所属されている方々でした。このような素敵な場に自ら経営をされているチャレンジに参加してもらえればもっと広がりのある場になっていくと感じました。是非、チームKGで社会の発展に寄与していきましょう。末筆ですが、今後の皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

思いを持って日々の仕事に取り組む ということ。

パナソニック株式会社 コーポレート戦略本部
人材戦略部 タレントマネジメント課
(兼)グローバル人事部 グローバル人事企画課

山崎 理芳
(2007年文学部卒)



私と三日月塾との出会いは、卒業生が講師を務める勉強会に参加し、三日月塾のお話を伺ったのがきっかけでした。日本を代表する企業の経営者から直接お話を伺う機会はそうあるものではない、と思う一方、「社歴も経験も浅い自分には時期尚早」と考えておりましたが、縁あって卒業生の大先輩からご紹介頂き、参加することになりました。

三日月塾で学んだことは数え切れませんが、講師の方々から共通して感じたことは「思いを持って日々の仕事に取り組むこと」です。

華々しいキャリアを築かれている講師の方々のお話は、ともしれば「その人だから出来た」話だと受け取られがちですが、どの方も入社当初から今のポジションを想定されていたわけではなく、ただ日々の仕事に思いを持って取り組む、その地道でありながら厳しい積み重ねの中でキャリアが形成されたのだと強く感じました。

また、肩ひじをはらず率直にお話頂く中で垣間見える講師の方々のお人柄から、

キャリアだけでなく人としての姿勢も学ばせて頂きました。

卒業後、私は予てより関心があったグローバル人材育成・組織開発に関わる仕事がしたい、と未経験分野に転職し、新たな会社で一からのスタートを切りましたが、不安に感じる時も三日月塾で学んだ「思いをもって日々取り組む、積み重ねる」姿勢を意識することで、以前よりも広い視野で物事を捉えることが出来るようになったと感じています。

また、三日月塾のもう一つの魅力である塾生との交流は卒業後も継続しており、年齢・会社・役職など背景が異なる個性豊かなメンバーと定期的に集まっています。社会人になってから、社外で刺激を与え合える大切な場が出来ることは有難いことであり、そんな機会を与えてくれた三日月塾に大変感謝しております。

三日月塾を通じて得た先輩方からの知見、塾生との交流を大切に、今後は与える側の人間になれるよう、“Mastery for Service”の精神で取り組んでいきたいと思